

ることを契機に、開かれた活発な精神科医療機関として、今後の運営が図れるように努力したいと考えている。

II. 特別講演

「日本脳炎, SSPE, DRPLA, 電子顕微鏡
—精神医学より出発した個人的な研究体
験を振り返って」

長岡療育園

小柳新策先生

第3回血液・血管研究会

日時 平成7年11月10日(金)
午後6時～8時
場所 新潟グランドホテル
3階 悠久の間

I. 一般演題

- 1) 脳血管の血行動態評価における経頭蓋エコー検査の現状と応用について

榛沢 和彦・大関 一 (新潟大学第二外科)
江口 昭治
中島 孝・福原 信義 (国立療養所犀潟
病院神経内科)
伏島 徹・今野 公和 (北日本脳神経外科
病院)

経頭蓋エコー検査は機器の開発と改良によって最近著しい発展をしている。断層像とパルスドップラーの両方が同時に表示できる duplex type の経頭蓋エコー用の機器の開発及び赤血球からのエコー反射強度で血流を表示する power Doppler 法の開発によって比較的容易に頭蓋内の血管走行が描出可能になっている。従来のパルスドップラー単独のいわゆる transcranial Doppler (TCD) では頭蓋内血管の位置や走行がわからなかったため、血管とパルスドップラービームとのなす角度による補正ができないという欠点があったが、duplex scanning を行うことにより血管走行を確認しながらサンプルボリュームの位置を決めることでより正確な流速測定が可能となった。このため中大脳動脈等の脳内血管の血流速度の左右差の検出が可能となり、脳内の血行動態の評価も可能であると報告されている。また TCD についても、これ

までは血栓のシグナルとアーチファクトの区別が難しかったが、最近の機器ではその区別が容易にできるようになっており、血栓の検出用としてその重要性が再認識されている。また日本人を含めた東洋人は欧米人に比べて経頭蓋エコーの描出率が低いと言われているが、超音波造影剤の使用により描出率が上昇することが報告されている。

今回我々は Ultramark9 (ATL), SONOS2500 (HP) 及び SSD2000 (Aloka) を用いて 2.0～2.5 MHz のセクター型プローブで duplex scanning による経頭蓋エコー検査を施行し、頭蓋内血管の血行動態の評価を試みたので報告する。また power Doppler 法は color Doppler 法よりも頭蓋内血管の描出に有用であったが、さらに頸動脈狭窄病変や大腿動脈狭窄病変等の末梢動脈病変にも power Doppler 法が有用であったことを合わせて報告する。

- 2) 解離性大動脈瘤による慢性 DIC に対する
ワーファリン、インドメタシン併用療法

永井 孝一・阿部 惇 (新潟県立中央病院
内科)
村川 英三
庭野 慎一・古寺 邦夫
鈴木 正孝・高野 諭 (同 循環器内科)

解離性大動脈瘤に合併した慢性 DIC に対し、凝血学的安定と患者の QOL の向上をめざし、非注射製剤を用いた内科的治療を施行したので報告する。

(症例) 58歳, 男性. 1975年, 解離性大動脈瘤にて開胸術を施行するも, 処置できず閉鎖した. 以後, 近医にて対症療法を受けていた. 1990年11月8日, 息切れ, 動悸を主訴に当院循環器科受診し, 即日入院となる. NYHAⅢ°, CTR 66.5%, ARⅢ°, MRⅢ°, TRⅢ°による心不全の診断にいたる. CTにて大動脈弓-腎動脈直上にいたる偽腔を認め解離性大動脈瘤の進行と, 壁在血栓を認めた.

PLT $8.1 \times 10^4 / \mu\text{l}$, APTT 44.1 sec, PT 測定不可, Fbg 44 mg/dl, FDP 160 $\mu\text{g}/\text{ml}$, ATⅢ 86%, $\alpha 2\text{PI}$ 54%, FDP D-Dimer 8,430 ng/ml. ヘパリン 10,000 単位の24時間持続点滴と, FFP 輸血にて, 11月29日より加療し, 12月3日には, Fbg 176 mg/dl, FDP < 20 $\mu\text{g}/\text{ml}$ と改善した. 外来治療を目的に, ワーファリン, ブコローム併用療法により TTO 20～30%にコントロールし, 血小板の活性化の抑制を目的にインドメタシンを併用し, ヘパリンを漸減中止した. 1991年1月30日, PLT $11.8 \times 10^4 / \mu\text{l}$, APTT 44.6 sec, PT 32.8%, Fbg 191 mg/dl, FDP 40 $\mu\text{g}/\text{ml}$, FDP D-Dimer 4,680 mg/ml,